研究発表会について

		ご指摘	回答
1	全体	特定の重要テーマを掲げた開催方式も考えられる 春秋2回開催も考えられる	調査研究部だけで決定できる問題ではなく、今後の検討課題とさせていただきます。
2		セッション分類がわかりにくくので見直してほしい	セッションは第34回に全面的に見直しています。その後も継続して改善を進めています。
3	申込み	申し込み、論文の投稿時期が学校の忙しい時期と重なる。	現在の開催時期(6,7月)から遡っていくと現在の時期が限界です。今後も改善を進め、期間短縮を図りたいと思います。
4		申し込み、投稿の2段階方式はわずらわしい。	投稿の時期が学校の忙しい時期と重なることに配慮して、投稿期限をなるべく遅くできるよう、2段階としています。
5		会員番号を入力すれば、その他は自動入力とできないか。	申し込み、投稿用のサーバーは外部業者のものを使用しているため、そこに会員情報をインストールすることは個人情報保護の観点から問題があります。必要最小限のデータ入力とするよう見直しをはかっています。
6	発表	発表時間5分は短すぎる。 ポスターセッションを導入してはどうか。	会場数との関係もありますが、発表時間時間をなるべく長くとれるようなプログラム編成となるよう調整します。 ポスターセッションは以前実施されていましたが、現在は行われていません。会場数がとれない場合に再検討する可能性はあります。
7		発表形式がOHP限定なのは時代遅れである。	函館大会では液晶プロジェクタによる発表形式になりました。流れはこの方向と思われるが、開催場所の事情によります。
8	DS 展望 特別講演	聞きたいセッションが重なる、聞きたいものがない時間帯がある。	できるかぎりそのようなことがないように配慮してプログラム編成をしているつもりです。
9		論文閲覧用に会場でPCを貸し出してはどうか。	次回以降の開催支部に検討事項としてお伝えします。
10		DSは多すぎる、採用数を絞った方が良い。	研究委員会関係者には、必要性を熟慮してDSの開催を申し込んでいただくようお願いしています。その上で申し込まれたものに対し、調査研究部で審査して採否を分けることは難しいと思います。
11		DSは重要なので最終日に開催しないでほしい。	なるべく参加しやすい日程にするよう調整します。
12		オーガナイズドセッション方式を導入してはどうか。	次回以降、導入を検討したいと思います。
13		学会賞受賞者の講演を行ってはどうか。	表彰関係は所掌する表彰委員会の意向によります。
14		特別講演は必要、不必要、両意見あり。	毎年、参加者は多く、開催の意義は大きいのではないかと考えます。
15	技術展示	技術展示は支部の負担になりすぎる。	研究発表会および交流会以外の行事は必須条件ではなく、開催しないことも可能ですが、現実には収支を支える収入源となっています。 発表会全体の収支のあり方ということで、今後の検討課題とします。
16		技術展示は一般の参加者に不親切。	何らかの形で出展者にご意見を伝えたいと思います。
17	講演集	講演集はCD-ROMのみでよい、冊子は不要。	冊子の需要もありますので、ほぼ実費で販売しています。 CD-ROM, pdf形式の永続性に疑問を持つ会員もいらっしゃるようです。
18		タイトル、著者、キーワード、概要をまとめたデータベースがついていると便利。	データベース作成のための費用を考慮した上で、掲載を検討します。

地盤工学シンポジウムについて

		ご指摘	回答
1	全体	プログラムなどの宣伝不足で認知度が低い	限られた査読期間で査読、審査、修正を行っていますため、土と基礎会告にプログラムを公開するための時間の余裕を確保することができません。現在は、会員へのメール周知及び HP 上でのプログラム公開で対応していますが、今後さらに土と基礎に HP 上でのプログラム公開予告を掲載するなど改善策を検討します。
2		実務に重点を置くなど独自性が必要	
3		学際分野を取り込む工夫が必要	
4		PR 策として表彰制度を設けてはどうか	
5		電子ジャーナル化が時代の趨勢であり、随時受付 + 季刊発行程度で作業を進めてはどうか	
6		インターネット公開時の討議、回答の取り扱いは	
7	査読	査読論文である必要性が不明確	第 46 回までは特定の設定テーマに対してシンポジウム論文の募集を行ってきましたが応募論文は減少傾向にありました。そこで、これを改善し歴史ある地盤工学シンポジウムをより活性化すべく、第 47 回からは研究成果に加えて、実務の視点から速報性に重点をおいた査読付論文集として再構成を試みています。その結果、論文数は所期の目標通り増加傾向にありますが、その一方でご指摘のように、その位置付け（特に土木学会論文集とのすみ分け）が曖昧であるという課題が必然的に生じています。この問題に加え、S&F の和文論文が近年極端に少ないこと、土と基礎無題号掲載論文が 3 ページ制限であること、など地盤工学会内に和文論文の受け入れ先が必ずしも確保されていないという課題を併せて解決を図る必要があります。
8		他の論文集、シンポジウム論文集との二重投稿規程が不明確	
9		査読レベルが分かりにくい	
10	論文集	目的、位置付け、レベルが曖昧で投稿しにくい	そこで、現在、会誌部、総務部、調査・研究部が連携して、新規邦文論文電子ジャーナルの発刊に向け、検討をすすめており、今後、左記のご指摘事項を踏まえて、具体化を図りたいと考えます。なお、現状では論文は随時受け付け、年 4 回程度発行の予定で、これに伴いすでの周知されましたとおり、S&F は英文論文として特化することになります。
11		S&F、土木学会論文集とのすみ分けが分かりにくく、中途半端な印象を受ける。工事事例に特化するか	
12	シンポジウム	頻度を落として質を上げるのはどうか	第 46 回まではテーマを設けたシンポジウム運営を行ってきましたが、より活発なシンポジウム運営を目指して 3 年前からテーマを設けずに開催しています。今後、シンポジウム論文集が新規邦文論文電子ジャーナルに統合された後のシンポジウム運営方法につきましては、一定期間の掲載論文から特定テーマに関する論文をピックアップしてシンポジウムを開催する、シンポジウム特集号を設けるなどの方法について、左記のご指摘を参考にし、検討を進めます。
13		シンポジウムである以上テーマ設定が必要では	
14		参加者が少ない	
15		研究発表会の査読付論文と位置付けて、研究発表会と併催にしてはどうか	
16		口頭発表を義務付けてはどうか	